第１日目　2024 年 9 月 7 日（土）
午前の部　10：00～12：30

テーマセッション(1)

性的マイノリティの立場からみるパートナー・世帯・家族
――「全国 SOGI 調査」の分析結果から

司会　元山琴菜(北陸先端科学技術大学院大学)
オーガナイザー　釜野さおり(早稲田大学)
平森大規(法政大学)

【企画趣旨】

近年、地方自治体のパートナーシップ制度導入が相次ぐなど、性的マイノリティの親密関係をとりまく社会情勢は大きく変化している。しかしながら、これまで性的マイノリティの親密関係に関する経験的研究の多くは質的調査や当事者団体によるアンケート調査をデータとして利用しており、性的マイノリティとそうでない人の比較分析に必要な全国を統計的に代表するデータはなかった。そこで本テーマセッションでは、科研費プロジェクト「性的指向と性自認の人口学の構築」（JSPS Kakenhi JP21H04407）が実施した日本初の性的マイノリティの生活実態に関する全国無作為抽出調査（通称：全国SOGI調査）の分析結果に基づく5つの報告を集めた。第一報告（小山泰代）では、続柄を選択肢とした複数回答の質問などを用いて、世帯や家族の形をどのようにとらえるか、また、人々の家族やパートナーに対する認識などに関する分析結果を示す。第二報告（申知燕）では、人口移動の観点から離家経験や親との関係などについて性的指向・性自認別に検討している。第三報告（釜野さおり）では、性的指向・性自認に加えてパートナー関係にも着目した上で、それらが心身の健康とどのような関連を持っているのかを検討している。第四報告（岩本健良）では、学校でのハラスメントやいじめが成人後までどのような長期的影響を及ぼすか、またそれが家族状況により緩和あるいは深刻化する可能性をデータから検討し、家庭内での幼少期逆境経験（ACE)に関する研究とも対応させながら考察する。第五報告（平森大規）では、性的指向・性自認と社会経済的不平等の関連性を検討するにあたってジェンダーと世帯内意思決定という観点がいかに重要であるかを示している。いずれも全国SOGI調査という日本では類を見ない調査に基づく分析結果である。当日はフロアのみなさまとの議論を通じて、家族に関わる社会調査で性的指向・性自認をたずねることの意義や課題について深めていきたい。